

令和8年二十歳の式

令和8年松浦市二十歳の式が一月4日、文化会館で開催されました。

今年、市内の二十歳を迎えた人は、男性134人、女性104人の計238人。

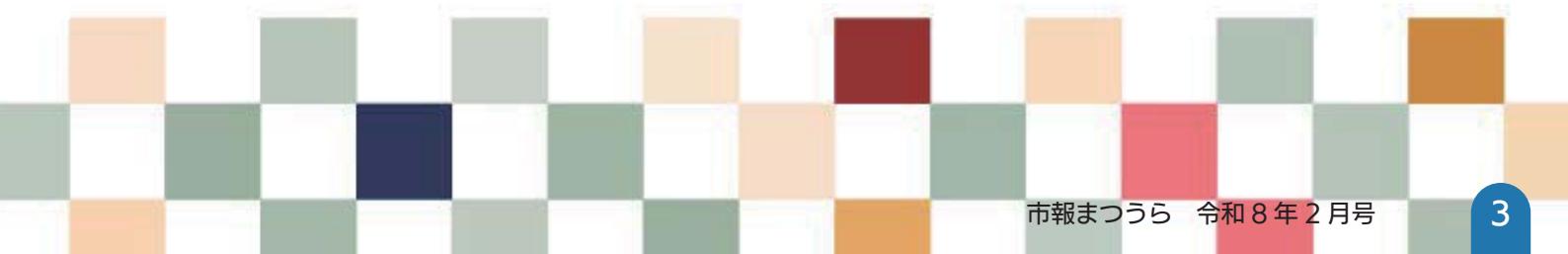
式典では石本貴大さん（志佐町）と本山実和さん（調川町）が司会を務めました。

友田市長は、「次の時代の担い手として、強い自覚と固い意志を持つてふるさと松浦を、そして日本を支えてくださることを期待しています。

これから先、たとえ困難な環境に置かれても、これは自分を強くするための試練だと常に前向きに受け止め、一歩ずつ歩んでいかれることを願っています」と式辞を述べました。

「二十歳の抱負」を代表者2人が述べた後、藤田葵颯さん（御厨町）が交通安全宣誓を行い、最後に小田柚葉さん（今福町）が市長から記念品を受け取りました。







二十歳の抱負

※一部を抜粋して掲載

私は、二つの夢があります。一つは、陸上競技で人に誇れるような成績を残すこと。もう一つは、仕事や部活動のO.B、人生の先輩といった立ち位置で、頼りにされる立派な指導者になることです。二十歳の自覚と責任感を持ち、社会を支える一人として、自分自身の成長とともに、より良い輪を広げていきたいです。



代表 渡邊 雄太さん（福島町）



代表
白石 華さん（鷹島町）

私は現在、専門学校で看護を学んでいます。二年生となり実習が増えるなか、その人らしさを尊重したケアやチーム医療の大切さを実感し、ボランティア活動では、社会の一員として行動する意識がより強まりました。将来は、誰に対しても思いやりを持ち、その人の人生に寄り添える看護職として、地域社会に貢献できるよう努力を続けていきます。